



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

8月号—No.339

2023.7.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【槿色(むくげいろ)】色名としては淡いピンクのこと。

木槿とも書く。ムクゲはハイビスカスや芙蓉と同じアオイ科フヨウ属で、花の色は白、ピンク、赤紫、水色などがある。朝開花して夕方には萎んでしまう一日花なので、初期の華道書では禁花とされていたが、茶人の千宗旦が白い花の中心が赤い一重の槿を好んだことから今では夏の代表的な茶花になっている。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和6年度 助成要綱決定
ステージラボ札幌セッション報告

財団からのお知らせ..... 6

令和6年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」実施
団体募集/令和5年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」ス
タート/令和6・7年度「公共ホール邦楽活性化事業」登録演奏家決定/
令和5・6年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」スタート/新
理事長就任あいさつ/「公共ホール求人情報」掲載申し込み方法

今月の情報..... 9

地域通信

今月のレポート..... 12

大阪府能勢町 浄るりシアター開館30周年 能勢人形浄瑠璃デビュー
25周年 鹿角座公演

●令和5(2023)年9月30日(土)まで申請受け付け

令和6(2024)年度助成要綱が決定

令和6年度 助成要綱決定

「地域の文化・芸術活動助成事業」は、地方公共団体等の自主事業の企画制作力の向上及び公立文化施設の利活用の推進等を図るため、地域において自主的に実施する文化・芸術活動を支援するものです。

また、「地域伝統芸能等保存事業」は、地方公共団体等が実施する、各地域固有の伝統芸能等の記録・保存・継承事業に対して助成するものです。

募集締切: 令和5(2023)年9月30日(土)

●地域の文化・芸術活動助成事業

[1]創造プログラム

◎一般分

地域の活性化に寄与する長期的展望を有し、発展的・継続的に事業を実施する上で他の地域の参考となるような工夫が認められる事業(2年もしくは3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)に対して助成する事業です。

◎企画制作力向上特別分

都道府県・政令指定都市が行う自主事業の企画制作力の向上や、他施設への波及効果をもたらす単年度の事業に対して助成する事業です。

※創造プログラム(一般分)とは別枠で利用可能。

[2]連携プログラム

地方公共団体等が単独では実施できず、経費削減など連携することにより初めて実施できるもので、3以上の地方公共団体等が連携して、共同で制作する事業や、そのために行う連絡調整に係る事業(原則1年間。ただし、連絡調整に係る事業は、翌年度の公演等の助成も可能)に対して助成する事業です。

[3]研修プログラム

公立文化施設等で企画運営に携わる職員や「地域文化コーディネーター」など地域の文化・芸術活動を担う者のスキルの向上、ノウハウの習得などを目指す実践的な人材育成事業(1年間)に対して助成する事業です。

●事業の詳細については、実施要綱をご確認ください。各実施要綱および申請書類は、当財団のホームページからダウンロードできます。

<https://www.jafra.or.jp/docs/10474.html>

※申請書は、都道府県・政令指定都市が管内の市区町村等の分を取りまとめて、地域創造へ提出してください。各市区町村等においては、都道府県等の取りまとめ団体の期限も確認し提出してください。

●「地域の文化・芸術活動助成事業」に関する問い合わせ
総務部 内田
Tel. 03-5573-4164

●「地域伝統芸能等保存事業」に関する問い合わせ
総務部 高野
Tel. 03-5573-4056

事業名	分野	事業実施者			
		地方公共団体			指定管
		都道府県	政令指定都市	市区町村	特定指定管理者(※) 注1
地域の文化・芸術活動助成事業	[1]創造プログラム(一般分)			○	○
	創造プログラム(企画制作力向上特別分)			×	都道府県・政令指定
	[2]連携プログラム 連絡調整事業	○	○	○	○
	[3]研修プログラム			○	○
[4]公立文化施設活性化計画プログラム					
地域伝統芸能等保存事業	[1]地方フェスティバル事業	○	○	○	○
	[2]映像記録保存事業	×	○	○	×
	[3]保存・継承活動支援事業				

[4] 公立文化施設活性化計画プログラム

公立文化施設が地域において果たすべき役割と、それを実現するための方策を掲載した計画を策定する事業に対して助成する事業です。

● 地域伝統芸能等保存事業

[1] 地方フェスティバル事業

地方公共団体等が実施する、地域固有の伝統芸能等を保存・継承するための公演事業に対して助成する事業です。

[2] 映像記録保存事業

市区町村が実施する、各地域の失われつつあり、かつ記録に残されていない地域固有の伝統芸能等を映像に記録・保存する事業に対して助成する事業です。

[3] 保存・継承活動支援事業

市区町村が実施する、地域固有の伝統芸能等の保存・継承のために活動している団体等への支援事業に対して助成する事業です。

【参考】令和5(2023)年度

「地域の文化・芸術活動助成事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
創造プログラム(一般分)	72	67
創造プログラム(企画制作力向上特別分)	27	26
連携プログラム	46	44
研修プログラム	13	13
活性化計画プログラム	1	1
合計	159	151

【参考】令和5(2023)年度

「地域伝統芸能等保存事業」採択実績

	申請事業数	決定事業数
地方フェスティバル事業	16	16
映像記録保存事業	11	10
保存・継承活動支援事業	39	39
合計	66	65

理者	特定公益法人(※) 注1	実行委員会等 注3	会場	助成措置			申請期限
				助成率	助成の上限額 (1年ごと1団体ごとの金額)	対象期間	
○	○	○	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	1/2以内	1,000万円	2年 もしくは3年	令和5(2023)年9月30日(土)必着
都市に係る指定管理者、特定公益法人、実行委員会等 ○				2/3以内	500万円 ※連携する事業全体で3,000万円	1年間	
○	○	○	2/3以内	100万円	事業前年 1年間		
○	○	×	2/3以内	200万円	1年間		
○	○	○ (保存会も含む)	原則として、当該申請団体の区域内に所在する公立文化施設	1/2以内	都道府県等：200万円 市区町村等：50万円	2年以内	
×	×	×	2/3以内	200万円	1年間		
×	×	×	1/2以内	30万円	1年間		

左表脚注

※特定指定管理者とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で指定管理者の指定を受けているものをいう。
一般指定管理者とは、上記以外の指定管理者をいう。
特定公益法人とは、地方公共団体が1/2以上出資している公益財団法人等で地域創造が特に認めたものをいう。

注1
設置者である地方公共団体の長の副申書を添付。

注2
設置者である地方公共団体の予算を経由して間接的に助成。

注3
地方公共団体が実行委員会等に対して負担する額が助成対象。

●ステージラボ札幌セッション

プロの演奏家とのアウトリーチプログラムづくりなど 多彩なゼミを開催

ステージラボ 札幌セッション 報告

2023年7月4日～7日



写真

左上：ホール入門コース「アーティストが地域に滞在すると何が起きる？」(さっぽろ天神山アートスタジオを訪問)

右上：自主事業コース「アウトリーチプログラムの素材」(講師：石上真由子・加藤文枝・酒井有彩)

左下：公立ホール・劇場マネージャーコース「レクチャー&ワークショップ「身体から障害を考える」(講師：セレノグラフィカ)

右下：共通プログラム「Creative Art Mix 特別企画 コンテンポラリーダンスワークショップ」

●コースコーディネーター

◎ホール入門コース

荻原康子(上田市交流文化芸術センター総合プロデューサー)

◎自主事業コース

仕田佳経(一般財団法人地域創造ディレクター、おんかつコーディネーター)

◎公立ホール・劇場マネージャーコース

吉本光宏(合同会社文化commons研究所代表)

●「ステージラボ」に関する問い合わせ

芸術環境部 藤原・田之頭

Tel. 03-5573-4183

*さっぽろ天神山アートスタジオ「札幌国際芸術祭2014」に伴い札幌市が保有していたゲストハウス「札幌天神山国際ハウス」を創造的活動を行うアーティストの滞在・活動支援施設としてリニューアル。交流スタジオ3、滞在スタジオ13、展示スペースなど。
<https://tenjinyamastudio.jp/>

ステージラボ札幌が7月4日から7日まで札幌市民交流プラザで開催されました。今回はホール入門コース、自主事業コース、公立ホール・劇場マネージャーコースが開講されました。プラザは、時計台やテレビ塔のある市中心に立地、本格的なオペラやバレエに対応する多面的舞台を有する札幌文化芸術劇場hitaru、札幌文化芸術交流センター SCARTS、札幌市図書館・情報館の3つから成る複合施設です。今回は、多くの市民で賑わうプラザの施設見学も行われました。

●幅広い基礎を学ぶ～ホール入門コース

入門コースのコーディネーターは、企業のメセナ活動に長年携わってきた荻原康子さん(上田市交流文化芸術センター総合プロデューサー)です。「75分で知る日本の文化振興の歩み」と題した情報量満載のレクチャーから、初日がスタートしました。

移動音楽教室など地域での活動に注力する群馬交響楽団音楽主幹の上野喜浩さんが、オーケストラの基本的な構造や業務の実際を伝授。古典作品を現代劇としてつくり変える木下歌舞伎制作の本郷麻衣さんは「勧進帳」を例に、具体的な現場の仕事に言及しました。

ダンサーの白神ももこさんは、受講生とのワークショップに続き、富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督として、オープンスペースを活かしたダンスカフェなどの取り組みを紹介。

また、国内外のアーティストの滞在制作を支援している「さっぽろ天神山アートスタジオ」(*)の現地視察も行われました。ディレクターの小田井真美さんが「アーティストを起点にしたネットワークをつくり、可視化し、市民と接続する」という天神山の取り組みをレクチャー。後半のゼミでは、地域とホールについて考えるグループ・ディスカッションをワールドカフェ形式で行うなど、多彩なプログラム内容となりました。

●演奏家とアウトリーチプログラムをつくる～自主事業コース

自主事業コースは、おんかつコーディネーターを務める地域創造の仕田佳経ディレクターが担当しました。特徴は、おんかつ支援登録アーティストである石上真由子さん(ヴァイオリニスト)、加藤文枝さん(チェリスト)、酒井有彩さん(ピアニスト)と共に、2日ばかりでアウトリーチのプログラムづくりに挑んだことです。

アウトリーチについての基礎を学んだ後、事前課題として聞き込んできたブラームスの『ピアノ

ノ三重奏曲第3番]を題材にプログラムづくりをスタート。演奏家の個性を理解するためのソロ演奏、第3番の全曲演奏を聞いた後、5グループに分かれてアウトリーチ先について検討。びわ湖ホールが提案したブラジル人学校の中学生が対象に決定しました。その後、3グループに分かれて演奏家も参加してプログラムを検討。その3案を出発点にプログラムを完成させました。最後の通し演奏は、直前までの生みの苦しみを払拭する素晴らしいアンサンブルとトークで、みんな感動の面持ちでした。

「さまざまな意見が出たり試していく中で変わっていく過程を体験することで、新しい視点を発見できた」「悩む時間、意見を聞いてかみ砕く時間がとても重要で、きつけれど楽しい時間だった」「どのように聴き手とアーティストの橋渡しをするのか考え直す機会になった」など、受講生の真摯な声が印象的でした。

●今日的な課題と向き合う～公立ホール・劇場マネージャーコース

マネージャーコース・コーディネーターの吉本光宏さん(合同会社文化コモンズ研究所代表)は、地域の課題と向き合うことをテーマに研修を行いました。

まず、北九州芸術劇場で障がい者とのダンスづくりを行っているセレノグラフィカ(隅地茉歩さん、阿比留修一さん)のレクチャー&ワークショップを受講。隅地さんは、障がい者、健常者、子ども、大人と一緒に踊る映像を映しながら、「ダンスでは一糸乱れない美しさ、身体の可動域の大きさが評価されてきたが、パリアフリー・ダンスの中に不揃いの美しさを発見した。脳性麻痺の参加者が『踊ることが大好き』と言ってくれた時、衝撃を受けた。そういう気持ちが表現したときの強度に繋がる。こうした取り組みができているのは北九州市身体障害者福祉協会などの専門家が関わってくださっているから」と一人ひとりに語りかけ、車椅子も使ったワークを行いました。

また、多分野のアーティストを学校に派遣しているNPO法人STスポット横浜理事長の小

川智紀さん、地域のホールでクラシック音楽事業を立ち上げてきた小澤櫻作さん(竹田市総合文化センター チーフプロデューサー)が実践例をレクチャー。それらを踏まえてグループ・ディスカッションが行われました。

最後に、吉本さんは、「芸術の力、アーティストの力、ホール・劇場の力を確信する」「時代や地域、市民の声に耳を傾ける」「目標やミッションを市民と共有し、業績ハイライトを広く喧伝する」「ステークホルダーと協働・共創・交渉し、仲間を増やして共感の輪を広げる」など、地域と向き合う心得をまとめていました。

※

共通プログラムでは、札幌文化芸術劇場が取り組む「Creative Art Mix」(札幌で活躍するダンサーと音楽家によるコラボ企画)の協力により生バンドによるダンスワークショップが実現しました。次回のステージラボは、来年2月に岡山芸術創造劇場ハレノワで行われる予定です。奮ってご参加いただければと思います。

ステージラボ札幌セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業コース	公立ホール・劇場マネージャーコース
	開講式/オリエンテーション		
7月4日	キックオフ「となりは何をする人ぞ?」 お互いを知り合おう」 荻原康子	「お互いを知る」 仕田佳経、桜井しおり	「自己紹介&グルーピング」 吉本光宏
7月5日	「75分で知る日本の文化振興の歩み」 荻原康子	「クラシック音楽を活用した事業」 仕田佳経	レクチャー&ワークショップ「身体から障害を考える」 セレノグラフィカ
7月5日	「アーティストが地域に滞在すると何が起きる?」 小田井真美	「音楽ワークショップ体験」 桜井しおり	「劇場・ホールを取り巻く環境変化を知る」 吉本光宏
	「劇場・ホールのお仕事、棚卸し」 上野喜浩、荻原康子	「アウトリーチプログラムの素材①②」 石上真由子、加藤文枝、酒井有彩	「文化芸術から地域の課題と向き合うために」 小川智紀
	「音楽ホール×オーケストラ、地域に何ができるだろう?」 上野喜浩	「アウトリーチプログラムの素材③」 仕田佳経、桜井しおり	「地域の劇場・ホール経営の現場に学ぶ」 小澤櫻作 「グループワーク：自身の劇場・ホールと向き合う」 小川智紀、小澤櫻作、吉本光宏
共通プログラム「Creative Art Mix特別企画 コンテンポラリーダンスワークショップ」 鈴木明倫、金澤絢彩、小野健悟、鳴海賢治、長谷川加奈、林佳一郎、青木務、酒井颯太、岡本育美、DJ TAMA a.k.a. SPC FINEST			
7月6日	「演劇をつくる、制作の仕事って?」 本郷麻衣	「実際に作る(グループワーク)①」 仕田佳経、桜井しおり	「発表と意見交換」 吉本光宏
	「ダンスワークショップ：からだに尋ねてみる」 白神ももこ	「実際に作る(グループワーク)②」 石上真由子、加藤文枝、酒井有彩、桜井しおり、仕田佳経	修了式
	「地域の物語を探る、人とかかわる」 白神ももこ、本郷麻衣、荻原康子	「実際に作る(グループワーク)③」 石上真由子、加藤文枝、酒井有彩	
7月7日	「グループディスカッション① 地域とつながるプログラムを考える」 荻原康子		
	「グループディスカッション② 地域から愛されるホールって何?」 荻原康子	「振り返りと今後に向けて」 仕田佳経	
	修了式		

財団からのお知らせ

●令和6年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」の実施要綱・申込書等は、当財団ホームページに掲載しています。

<https://www.jafra.or.jp/project/dance/02.html>

◎申し込み・問い合わせ

芸術環境部 日野

Tel. 03-5573-4067

dankatsu@jafra.or.jp

●令和5年度公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)実施団体(主会場/アーティスト/日程)

◎Aプログラム

●茨城県日立市(日立シビックセンター/大島匡史朗/7月5日～8日)

●京都府京都市(京都芸術センター/康本雅子/8月24日～27日)

●長野県喬木村(喬木村福祉センター/中村蓉/10月11日～14日)

●静岡県菊川市(菊川文化会館アエル/井田亜彩実/10月18日～21日)

●千葉県市川市(市川市文化会館/浅井信好/11月8日～11日)

●愛知県知多市(知多市勤労文化会館/康本雅子/2024年2月20日～23日)

◎Bプログラム

●京都府(京都府立けいはんなホール/浅井信好/6月23日～25日、8月21日～26日)

●高知県四万十市(四万十市総合文化センター/藤田善宏/12月26日～28日、2024年2月6日～11日)

◎Cプログラム

●山形県鶴岡市(荘銀タクト鶴岡/長与江里奈/6月29日～7月2日)

●北海道大空町(大空町教育文化会館/中村蓉/7月19日～22日)

●神奈川県茅ヶ崎市(茅ヶ崎市民文化会館/藤田善宏/9月21日～24日)

●鹿児島県与論町(与論町砂美地来館/長与江里奈/12月6日～9日)

●広島県東広島市(東広島芸術文化ホールくらら/井田亜彩実/2024年1月18日～21日)

◎問い合わせ

芸術環境部 児島・永田

Tel.03-5573-4077・4075

●令和6年度「公共ホール現代ダンス活性化支援事業(ダン活支援)」実施団体募集

公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)実施団体を対象としたフォローアッププログラ

ムです。ダン活で蓄積したノウハウを活用し、引き続き同様の事業を自主的に行う地方公共団体等に対し、財政的な支援を行います。

募集締切:2023年9月22日(金)必着

◎対象団体

次に掲げる①または②に該当する団体であって、本事業を実施していない団体、かつ、原則として令和元年度以降にダン活を実施した団体

①ダン活のAプログラム(地域交流プログラム)、Bプログラム(市民参加作品創作・公演プログラム)およびCプログラム(公演プログラム)のすべてを実施した地方公共団体等

②ダン活のAプログラムおよびBプログラム、またはAプログラムおよびCプログラムを実施した地方公共団体等

◎対象アーティスト

公共ホール現代ダンス活性化支援事業登録アーティスト(27組)

◎支援内容

以下の①②に係る経費の1/2以内で財政支援を行います。

①対象アーティスト等派遣経費:対象アーティスト、アシスタント、テクニカルスタッフ等の出演料等(助成対象上限あり)、

交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、損害保険料

②公演負担金:公演実施に係る経費(助成対象上限あり)

※詳細については要綱をご確認ください。

●令和5年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」がスタート

地域交流プログラム(アウトリーチ、公募ワークショップ)を実施するAプログラム、市民参加作品を創作し上演するBプログラム、アーティストのレパートリー作品を上演するCプログラムを、年度ごとに選択して継続的に事業の実施が可能な「ダン活」。今年度の実施団体は11団体(左欄参照)。6月から各地で事業がスタートしています。

Bプログラムの京都府(京都府立けいはんなホール)では、開館30周年の節目に伴い、より市民に身近なコミュニティの場となることを目指して、子どもたちとの作品づくりに取り組んでいます。1回目の実施では、公募で集まった小中学生に向けて、ダンスワークショップのほか、地域を拠点に活動する近隣団体との連携で実現した多彩な体験プログラムを展開。郷土資料館では、実際に糸紡ぎをしながら綿から糸がつくられる工程を体験するなど、自分たちが暮らしている精華町周辺エリアに伝わる伝統芸能や産業についての理解を深めました。夏休み期間のクリエイションでは「おとなサポーター」も加わり、地域産業でもある糸をテーマに文化学術研究都市ならではの技術も駆使したオリジナル作品を8月26日に上演予定です。

鶴岡市(荘銀タクト鶴岡)では、ホールが展開するダンス事業のひとつとしてCプログラムを実施しました。表現の多様性を楽しみながら受け入れられる「鑑賞者」の育成を目指したいとの目的で、何もない舞台上に一からダンス公演が立ち上げられていく特徴的なレパートリー作品を上演。担当者がコロナ禍に映像で鑑賞したことをきっかけに、いつか鶴岡の地でも届けたいとの思いで延期を経ての実施となり、アーティスト、ホール職員

が共に舞台をつくり上げました。また、公演終了後に実施した公募ワークショップでは、子どもから大人、ダンス経験者から未経験者まで幅広い参加者が、舞台上でピアノの生演奏に合わせてコンテンポラリーダンスならではの自由な身体表現を楽しみ、ホールが掲げる今年のテーマ「まちをひらく」の一步を感じられる機会になりました。

これから実施予定の団体も、工夫を凝らしたプログラムを企画しています。ぜひ、お近くで行われるダン活の取り組みにご注目ください。



上:糸紡ぎ体験の様子(Bプログラム/京都府立けいはんなホール/アーティスト:浅井信好) 下:公募ワークショップの様子(Cプログラム/荘銀タクト鶴岡/アーティスト:長与江里奈)

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和6・7年度「公共ホール邦楽活性化事業」登録演奏家が決定しました

当事業において令和6・7年度に全国に派遣される3名の登録演奏家を紹介します。登録演奏家は今後、公共ホール邦楽活性化事業についての具体的な事例や地域コミュニティとの関わり方、地域交流プログラムづくりのための研修を受け、来年度の実施に臨みます。令和6年度の実施団体は現在募集中ですので、新たな演奏家とともに地域に邦楽を届けたい公共ホールの皆様は、ぜひご応募ください。

募集締切：2023年9月8日(金)必着

●安嶋 三保子(あじま みほこ)[箏]

幼少より深海さとみに師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科箏曲生田流専攻卒業、同大学院修了。賢順記念全国箏曲コンクール賢順賞ほか受賞歴多数。文化庁青少年新進芸術家研修にて箏組歌を鳥居名美野に師事。文化庁三曲新進演奏家研修にて地歌三絃を富山清琴(人間国宝)、現代箏曲を福永千恵子に師事。宮城会、日本三曲協会、森の会、深海邦楽会、各会員。深海合奏団、和楽器集団「鳳雛」、各団員。



●森 梓紗(もり あずさ)[箏]

沢井一恵氏に師事。東京藝術大学音楽学部 邦楽科 現代箏曲専攻に第一期生として入学し、在学中に十七絃箏コンチェルト《Nurse Log》(冷水乃栄流作曲 2020年)の委嘱初演を果たす。卒業に際し、安宅賞・同声会賞受賞。同大学修士課程修了。第25回賢順記念全国箏曲コンクール銀賞。第6回利根英法記念邦楽コンクール最優秀賞。沢井箏曲院教師。首席登第並びに会長賞受賞。



●公共ホール邦楽活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部 森永・矢嶋
Tel. 03-5573-4069
hougaku@jafra.or.jp

●公共ホール創造ネットワークモデル事業に関する問い合わせ
芸術環境部 栗林・岩崎
Tel. 03-5573-4076

●大萩 康喜(おおはぎ やすよし)[尺八]

立命館大学在学中に尺八に出会い、琴古流尺八と古典本曲を石川利光、都山流尺八と尺八製作を西田仙秋山(露秋)に師事。第24回くまもと全国邦楽コンクール最優秀賞。NHK「にっぽんの芸能」に出演。尺八製作シーンをYouTubeで配信(明日への扉)。故郷の愛媛県に尺八工房慈庵を構え、製作技術を活かした楽器作り体験ワークショップや、邦楽を知らない方々にも親しんで頂く想いで演奏活動を行う。



●令和5・6年度「公共ホール創造ネットワークモデル事業」がスタート

地域創造では、「公共ホール創造ネットワークモデル事業」(2カ年事業)を新たに立ち上げ、令和4年度から実施しています。この事業は、都道府県等を中心に、県および市町村等の公共ホールが共同・連携して、クラシック音楽、現代ダンスまたは演劇の複数ジャンルのアーティストを市町村に派遣して地域交流プログラムを実施するとともに、新たな作品を制作して公演を実施するものです。

令和5・6年度は和歌山県を中心に実施し、今年度は地域交流プログラムとして、参加3町(かつらぎ町、上富田町、串本町)で小学生を対象にアウトリーチを実施します。県と町の担当者が話し合いながら、公共ホール音楽活性化支援事業の登録アーティストであるヴァイオリニストの北島佳奈さん、公共ホール現代ダンス活性化支援事業の登録アーティストであるセレノグラフィカ(隅地菜歩さん、阿比留修一さん)の2組のアーティストを選び、リージョナルシアター

事業のアドバイザーでもある劇作家・演出家の岩崎正裕さんにコーディネーターとして関わっていただき、新たなアウトリーチプログラムをつくり上げていきます。

5月から県・参加3町の担当者、アーティストが集まりアウトリーチの研修を実施し、プログラムづくりがスタートしています。5月には、まずアウトリーチとはどういうものかを知るために、それぞれのアーティストによる模擬アウトリーチを体験。その後、担当者も参加してプログラムづくりが始まりました。担当者にとって、アーティストがどのように考えてプログラムを組み立てているのか、体験したことも含めて感じ取れる良い機会となりました。6月にさらにつくり込み、10月にプログラムづくりを終えて、各町でのアウトリーチがスタートします。

アウトリーチの様子につきましては、改めてレター等でお知らせする予定です。



上：北島佳奈さんによる模擬アウトリーチ体験の様子
下：北島佳奈さん、セレノグラフィカのアウトリーチプログラムづくりの様子

▼ 財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

● 令和5年6月30日付けで新理事長就任 新理事長あいさつ

～感動を地域に、人生をより豊かに～

一般財団法人地域創造理事長の河内隆でございます。

皆様のご支援をいただき、ともに手を携えて、文化・芸術の面から地域づくりのお役に立てるよう努力してまいりますので、何卒宜しくご指導を賜りますようお願い申し上げます。

3年を超えるコロナ禍の中、アーティストの発表機会が激減し、地域の方々が本物のパフォーマンスに触れられる機会も失われるなど、文化・芸術を取り巻く環境は著しい変化を余儀なくされました。その一方で、「WITHコロナの時代」への認識が深まると、人と人とのつながりの在り方が改めて問われ、心の拠り所としての文化・芸術活動の持つ力が再認識されるようになりました。

“文化・芸術の面から、地域を元気にする、人生をより豊かにする”——その環境づくりを使命とする当財団の役割は、極めて大きなものがございます。これまでの関係者のご尽力により、29年に及ぶ多彩な財団事業の積み重ねを通じ、当財団は今や「地域の文化・芸術活動の基盤を支える自治体共通インフラ」としての存在感を増していると感じます。

私は、直近2年間、都市と地域を結ぶ整備新幹線等の巨大プロジェクトのインフラ整備を担って参りましたが、これから、アーティストと鑑賞者を繋ぎ感動を届けることや文化・芸術活動を担う人材の育成に関われますことは大きな喜びであり、気持ちも新たに財団運営に真摯に取り組んでいく所存です。

これからも、皆様の声に耳を傾けながら、質の高い文化・芸術を地域にお届けし、地域の方々が本物の魅力に触れられますよう、財団の専門的人材ネットワークとアウトリーチ・ワークショップ等のノウハウを活用して、自治体を応援して参りますので、財団活動への皆様方のご理解ご協力の程、宜しくようお願い申し上げます。



● 河内 隆(かわち・たかし)

1957(昭和32)年生まれ。1982(昭和57)年自治省入省。横浜市、徳島県、京都市、内閣官房、内閣府(事務次官)、(独)鉄道・運輸機構(理事長)に勤務。

● 「公共ホール求人情報」

掲載お申し込み方法

登録フォームにアクセスいただき、必要事項を直接ご入力ください。送信を行うには、フォーム最下部の投稿用認証キー欄へID、パスワードの入力が必要です。

※スパム対策のため、登録フォームURLおよびログインID、パスワードはホームページ上に記載していません。

[問い合わせ]

芸術環境部 人材育成担当

Tel. 03-5573-4093

jinzai@jafra.or.jp

- 1 求人情報登録フォームへアクセス。
- 2 登録フォームに沿って、必要事項を入力してください。
- 3 フォームの最下部にある投稿用認証キー欄にID、パスワードを入力。
- 4 登録を完了すると自動で登録完了をお知らせするメールが手元に届きます。
- 5 地域創造が内容を確認後、ホームページに情報を公開します。公開完了はメールでお知らせします。登録から情報公開までは2～3日程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※情報を修正する場合には、「修正フォーム」へアクセスし、投稿用認証キー欄に登録時に使用したメールアドレス・ID・パスワードを、No.入力欄に公開完了のメールに記載した登録No.をご入力の上、「編集する」をクリックしてください。フォームから情報を修正し登録を完了すると、自動で登録完了をお知らせするメールが届きます。新規登録時と同じく、情報公開までは2～3日程度お時間をいただく場合がありますのでご了承ください。

2023年5月号でお知らせした令和5年度地域創造メンバーが異動により変更になっています。

※4桁の数字は03-5573に続く番号です。

● 会長	
山本信一郎(やまもと・しんいちろう)	4050
● 理事長	
河内 隆(かわち・たかし)	4050
● 常務理事	
松崎 茂(まつざき・しげる)	4050

▼ 今月の情報

アートセンター、アートクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

● 地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

● データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

● 地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

● 情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 林・管藤

● 2023年10月号情報締切
8月25日(金)

● 2023年10月号掲載対象情報
2023年10月～12月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

● 北海道旭川市

旭川市大雪クリスタルホール
〒070-8003 旭川市神楽3条7丁目

Tel. 0166-69-2000 武田敦子
<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/>

開館30周年記念 「アニバーサリーコンサート」

旭川市大雪クリスタルホールが9月に開館30周年を迎えることを記念して、ホールと出演者が協働して開催する手づくりコンサート。旭川市内および近郊で活躍中の演奏家10組が出演し、市民と共に30周年を祝う。出演者はお祝いの言葉やクリスタルホールでの思い出などを交えながら素敵な演奏を披露する。

[日程]8月27日
[会場]旭川市大雪クリスタルホール

● 岩手県岩手町

石神の丘美術館
〒028-4307 岩手郡岩手町大字五日市10-121-21

Tel. 0195-62-1453 齋藤桃子
<https://ishigami-iwate.jp/>

Ishigami Art Walk + North Wind Project SELECTION いわてでえがく いわてでつくる

開館30周年を迎える節目に開催される、岩手在住の美術家24名の近作を紹介する企画展。過去に同館で開催された2つのシリーズ企画、館内ギャラリーと野外展示場を利用した「ISHIGAMI ART WALK」(2006～15)、岩手にゆかりある若い世代の美術家をゆるやかなテーマのもと紹介



「いわてでえがく いわてでつくる」
展示の様子

介する「North Wind Project」(2016～)で取り上げた美術家に呼びかけ開催。

[日程]6月17日～9月3日
[会場]石神の丘美術館

● 岩手県北上市

北上市文化創造
〒024-0084 北上市さくら通り2-1-1

Tel. 0197-61-3300 高橋裕亮
<https://www.sakurahall.jp/>

さくらホールオリジナル盆踊り 大会「さくら盆ジュエル2023」

今年で10回目を迎える、ホールオリジナルの盆踊り大会。ダンスカンパニー・コンドルズが制作したオリジナル盆踊り曲『はやて』をみんなで踊るほか、公募で集まったブラスバンドチームの演奏も。また、地域の方々によるお店の出店や子どもの縁日コーナーなどもあり、より地域と密着したお祭りとして、誰もが楽しめる催しとなっている。

[日程]8月11日
[会場]北上市文化交流センター さくらホール

関東

● 栃木県宇都宮市

栃木県立美術館
〒320-0043 宇都宮市桜4-2-7
Tel. 028-621-3566 山本
<http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/>

今日の彫刻・富井大裕展 —トルソ、或いはチャーハン—

スーパーボールや色鉛筆、ゼムクリップなどの多様な事務用品や道具類などに、「積み上げる」「並べる」「重ねる」といったシンプルな日常の行為を付加することで、既製品から本来の意味や機能を解放し、彫刻として新たな様相を現前させる富井大裕。副題は作品タイトルであると同時に、彫刻と生活世界の往還を表しており、最新作64点と写真2,827枚から構築される空間で、

創造性を自由に開放する機会を探る。

[日程]7月8日～9月3日
[会場]栃木県立美術館

● 千葉市

千葉市文化振興財団
〒260-0017 千葉市中央区粟町1-1

Tel. 043-221-2411 石坂卓
<https://www.f-cp.jp/shimin/>

千葉市民創作ミュージカル 『千年天女』

市民が協力して作り出す「千葉市民創作ミュージカル」。今年が2回目の開催となり、総勢約30人の小学4年生から80歳代まで多世代の市民が出演する。千葉氏の祖先「平忠常・常将・常親」親子と千葉に伝承している「羽衣伝説」、そして世界最古の花「大賀ハス」などをモチーフに、平安時代・戦中・現代にわたり、天女が“平和”とは何かを語りかける、壮大な歴史ロマン・ミュージカル。

[日程]8月27日
[会場]千葉市民会館



『千年天女』稽古の様子
©kase.toshihiko

● 東京都台東区

東京文化会館
〒110-8716 台東区上野公園5-45

Tel. 03-3828-2111 高橋かほり
<https://www.t-bunka.jp/>

音楽劇『シミグダリ氏または麦粉の殿』

子どもたちが生の舞台上にふれられる機会を創出する「シアター・デビュー・プログラム」。その一つとして小学生向けの音楽劇を

開催。ギリシャの民話が題材で、イリヤ姫が麦粉などでつくった恋人・シミグダリ氏が遠い国の悪い女王によってさらわれ、姫が彼を探しに旅するというファンタジー。音楽監督・作編曲を手がける新垣隆ら一流アーティストを起用した本格的な音楽劇ながら親子で楽しめる親しみやすいプログラムとなっている。

[日程]8月6日
[会場]東京文化会館

●神奈川県小田原市
小田原市
〒250-0012 小田原市本町1-7-50
Tel. 0465-20-4152 森田百合花
<https://ooo-hall.jp/>

三の丸ホールの夏休み「劇場留学〜お芝居をつくる7日間〜」

劇場のプロフェッショナルなガイド役と一緒に、7日間でお芝居をつくる「劇場留学」。小学3〜6年生と訪日外国人を対象に公募し、集まったメンバーで小田原のまちを散策して感じたことや面白いことを見つけて、「まちのお芝居」を創作。最終日には上演も行う。ガイド役は、演出家の川口智子や、大道芸人のせせらぎなど5名。公募の中・高校生サポートスタッフも参加予定。

[日程]8月21日〜27日
[会場]小田原三の丸ホール ほか

●神奈川県茅ヶ崎市
茅ヶ崎市美術館
〒253-0053 茅ヶ崎市東海岸北1-4-45
Tel. 0467-88-1177
<https://www.chigasaki-museum.jp/>

開館25周年記念「イギリス風景画と国木田独歩」

茅ヶ崎でその短い生涯を閉じた国木田独歩の自然観にふれつつ、独歩が大きな影響を受けたイギリスのロマン派詩人ウィリアム・ワーズワースの生きた18世

紀から19世紀の近代イギリス風景画と、19世紀から20世紀の日本の風景画などを郡山市立美術館と府中市美術館の優品により紹介。近代イギリス風景画の流れやわが国においての受容について考察する。

[日程]6月18日〜8月27日
[会場]茅ヶ崎市美術館

北陸・中部

●福井県大野市
COCONOアートプレイス
〒912-0081 大野市元町12-2
Tel. 0779-64-4848 伊藤富美
<https://www.cocono-art.jp>

ウィギーカンパニー版画展「DAPPI(脱皮)」

版画家・図案家のウィギーカンパニーによるすべて新作から成る展覧会。固定された枠から、一步踏み出す心地よさと同時に感じる摩擦や揺らぎを、シルクスクリーン版画をメインに、カラージュエリーや映像作品、ダンサーや音楽家とのコラボレーションを交え、幅広く表現する。関連企画として8月6日、20日の各日2回、ダンサーの松田百世と音楽家のYukari Kawadaによる脱皮をテーマにしたパフォーマンスが行われる。

[日程]7月15日〜9月18日
[会場]COCONOアートプレイス



「DAPPI 脱皮」(映像作品の一部)

●岐阜県岐阜市
岐阜県美術館
〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22

Tel. 058-271-1313 後藤規絵
<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>

アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.14 設楽陸

美術館の中にアーティストのアトリエが出現し、制作活動を身近に鑑賞・体験する企画。完成した作品を鑑賞するだけではわからないアートが生まれる瞬間を共有できる。今回は、現実とVR(仮想現実)の融合を試みる画家の設楽陸が公開制作を行い、トークセッションやVRお絵描き教室などのワークショップも見どころ。空間を超えた制作活動について知ることができる。

[日程]7月20日〜9月3日
[会場]岐阜県美術館アトリエ

近畿

●滋賀県大津市
滋賀県芸術劇場びわ湖ホール
〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7133 古川恵理
<https://www.biwako-hall.or.jp/>

びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」

厳しいオーディションを経て選ばれた声楽家により構成される日本初の公共ホール専属オペラ歌手集団「びわ湖ホール声楽アンサンブル」。オペラ歌手たちがその高い歌唱力で唱歌や童謡、昭和・平成に親しまれた歌謡曲を特別アレンジで歌い上げる。管弦楽には京都フィルハーモニー室内合奏団を迎え『大地讃頌』や『やさしさに包まれたなら』など全15曲を演奏する。

[日程]8月5日
[会場]滋賀県芸術劇場びわ湖ホール

●京都市
ロームシアター京都
〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13
Tel. 075-771-6051 山形ゆき
<https://rohmtheatreyokyo.jp/>

プレイシアター in Summer 2023 オープンデイ

2017年から毎年開催されている子ども向けの夏休み企画。今年は「げきじょうであそぼう!」を合言葉に、京都市交響楽団による0歳からの夏休みコンサートや子ども市民寄席がある「わいわい」する日や舞台スタッフを体験できる「チャレンジ」、好きな時間にホールやプロムナードなどいろんな場所を巡って「のびのび」する日と、日程ごとにさまざまなスタイルで劇場を楽しめる。

[日程]8月11日〜13日、16日、17日
[会場]ロームシアター京都

●大阪府河内長野市
河内長野市文化振興財団
〒586-0016 河内長野市西代町12-46

Tel. 0721-56-6100 守谷有加
<https://lovelyhall.com/>

ラブリーホール・オリジナル・ミュージカルvol.12 『夢見の王国 2023』

小学4年生から20歳代までのメンバーで構成されているラブリーホール・ミュージカルスクールのメンバーがお届けするオリジナル・ミュージカル。学校では体験できない劇場ならではの本格的なミュージカル作品の制作、また地域・世代を超えた交流を実現し、子どもたちの「頑張る」という意志と成長を育んでいる。多くの人に感動を届けることを目標に、子どもたちは日々練習に励んでいる。

[日程]8月6日
[会場]河内長野市立文化会館(ラブリーホール)



昨年の公演『OZ オズの魔法使い』

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

中国・四国

●岡山市

両備文化振興財団

〒703-8256 岡山市中区浜2-1-32

Tel. 086-271-1000 平松里美

<https://yumeji-art-museum.com/honkan/romantic/>

Taisyo Romantic Design

夢二のモダン×伝統デザイン

大正浪漫を代表する詩人画家・竹久夢二の企画展。デザイナーでもあった夢二は、異国の絵画に影響を受け、日本の伝統文様と融合させたデザインを日用品に展開し、人気を博した。今回は、新収蔵となる《千代紙「きのこ」》を初公開。夏休みこども企画では、第13回「こども夢二新聞」の募集や、「こども記者謎解きバスツアー」、消しゴムはんこ体験など企画が盛り沢山。こども学芸員による案内も不定期で開催。

[日程] 6月6日～9月10日

[会場] 夢二郷土美術館 本館



竹久夢二ゆかりの施設を巡る「こども記者謎解きバスツアー」の様子

●山口県山口市

山口情報芸術センター[YCAM]

〒753-0075 山口市巾着町7-7

Tel. 083-901-2222 西翼

<https://www.ycam.jp/>

Yamaguchi Seasonal 2023 /

大友良英+青山泰知+伊藤隆之

「without records」

YCAMが制作・発表してきた作品を、中心市街地や史跡で公開する展示シリーズ「Yamaguchi Seasonal 2023」。音楽家の大友良英と美術家の青山泰知、エ

ンジニアの伊藤隆之が2008年にYCAMで制作・発表し、国内外で形態を変えながら展示されてきた《without records》を再展示する。127台のポータブルレコードプレイヤーそのものが発する個性豊かな音が多層的に共鳴するサウンドインスタレーション。

[日程] 7月23日～11月5日

[会場] 山口情報芸術センター

[YCAM] サテライトA

●高知県香美市

香美市立美術館

〒782-0041 香美市土佐山田町262-1 プラザ八王子2F

Tel. 0887-53-5110 小松サヤ

<https://www.city.kami.lg.jp/site/biujutukan/>

リーした11組の中からベストパフォーマンス賞を決定する。また、全国大会常連校の精華女子高等学校ダンス部のパフォーマンスや、九州在住や九州出身の現役ダンサーが集い、ジャンルの垣根を越えて芸術作品をつくり上げるプロジェクトFDD (Focus Dancer's Dream)による手話ダンスも実施されるほか、「皆でうどん体操を踊ろう!」コーナーなど、観覧者も楽しめるイベントとなっている。

[日程] 8月20日

[会場] ミリカローデン那珂川

●福岡県芦屋町

芦屋町教育委員会

〒807-0113 遠賀郡芦屋町中ノ浜4-4 芦屋町中央公民館3F

Tel. 093-222-1681 石松夏実

<https://www.town.ashiya.lg.jp/site/townpromotion/28329.html>

ミュージカル&コンサート公演。小学生からシニアまで幅広い年代の市民が参加し、長年取り組んできたもののコロナ禍により実施できずにいた市民ミュージカル復活の足掛かりとなる。公演は、第1部では絵本『小さい“つ”が消えた日』をもとに製作したオリジナルのミニ・ミュージカルを上演。第2部では、ブロードウェイミュージカルの有名曲によるコンサートを実施する。

[日程] 8月13日

[会場] シーハットおおむら・さくらホール



昨年のミュージカル・ワークショップ 成果発表の様子

●宮崎県新富町

宮崎県立芸術劇場

〒880-8557 宮崎市船塚3-210

Tel. 0985-28-3208 工藤治彦

<https://miyazaki-ac.jp/>

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

大阪府能勢町

浄るりシアター開館30周年
能勢人形浄瑠璃デビュー
25周年

鹿角座公演



上:口上を務めるお浄&るりりん(左から、るりりん、上森町長、岡本座長、お浄)
下:公演の様子(『能勢三番叟』)
写真提供:浄るりシアター

●2023年6月能勢浄るり月間「能勢人形浄瑠璃鹿角座公演」

【主催】能勢人形浄瑠璃実行委員会、能勢町、能勢町教育委員会、能勢人形浄瑠璃鹿角座

【会期】2023年6月24日、25日

【会場】浄るりシアター

【監修】吉田襄助

【芸術監督・演出】桐竹勤十郎

●能勢人形浄瑠璃の歩み

江戸時代中期に大阪で流行していた浄瑠璃が能勢に伝わり、太棹三味線と太夫の語りによる“素浄瑠璃”が人々の楽しみとして定着。3派が200年にわたって伝統を継承(2001年に新たな派が誕生し、現在は4派)。特徴は“おやじ”制度(会派同士の賛同を得た浄瑠璃好きが弟子を5、6人養成して一代限りの“おやじ(師匠)”となる)と呼ばれる独特の継承システム。1993年に大阪府無形民俗文化財に指定され、99年には国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択された。93年に開館した浄るりシアターでは、この伝統の素浄瑠璃を地域の財産として守り、育てていくため、文楽座の指導により人材育成を行い、オリジナル人形を加えた「ザ・能勢人形浄瑠璃」をプロデュースし、98年にデビュー公演を実施。2006年には人形浄瑠璃劇団「鹿角座」を旗揚げし、毎年6月に定期公演を実施。

大阪府能勢町の町営ホール「浄るりシアター」がこの6月に開館30周年を迎えた。5周年の1998年には、江戸時代から能勢の人々に楽しみに語られてきた素浄瑠璃に、三人遣いの人形を加えた「ザ・能勢人形浄瑠璃」がデビュー。以来6月を「能勢浄るり月間」として人形浄瑠璃を披露してきた。記念すべき今年は24・25日に男女のカップルで舞うオリジナル演目『能勢三番叟』、『伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段』、初上演となる『傾城恋飛脚 新口村の段』が披露された。

24日正午前、「大入」の幟に迎えられて入り口を入ると、人の多さに驚いた。平土間の小ホールにはシアターグッズや地場産品が並ぶ売店やカフェを設置。鹿角座座員の子どもたちが開場を告げる太鼓を打ち、黒衣姿で男女の三番叟を遣いながら現れた。

浄るりシアターでは開館当初から子どもの体験学習に力を入れてきた。鑑賞事業として「中学卒業までに3回、劇場に来て人形浄瑠璃を見る。チケットもつくり、モギりもして、劇場で見る体験にこだわった」と松田正弘館長は言う。6年生は全員が『能勢三番叟』を学ぶ。夏休み前から稽古を行い、11月の発表会では太夫、三味線、人形遣い、囃子も司会もすべて子どもたちが担う。

並行して後継者育成のための「人形浄瑠璃ワークショップ」も開いてきた。太夫、三味線、人形遣いの指導は子どもも大人も文楽座、囃子は望月太明蔵社中が担った。鹿角座の太夫や人形遣いも子どもを指導する。岡本勲座長は「子どもたちは受験や塾通いがあり、継続するのは大変」と言うが、65人の座員の3分の1を小中高生が占め、『伊達娘恋緋鹿子』では大人と並んで人形遣い、太夫、三味線を勤めた。今では太夫名を持つ者も生まれている。

こうした人材育成だけでなく、人形浄瑠璃を普及するさまざまな手を打ってきたが、その最新のチャレンジが高校生の太夫と三味線弾きを美少女風キャラクターにした「お浄&るりりん」の制作だ。2014年に能勢の人形浄瑠璃をテ-

マに全国公募し、町内の小中学生と町民が最終候補3作から選んだ。町花のササユリやシカの角を髪に飾るお浄&るりりんは15年には町公認キャラクターになり、18年には徳島県の人形師・甘利洋一郎さんが首をつくり、人形として舞台上で登場。今回も上森一成町長、岡本座長と共に口上を務めるなど大活躍だった。

こうしたチャレンジができるのも、大内祥子初代館長時代から変わらず貫いてきた「200年後に古典と言われる能勢の人形浄瑠璃をつかっていく」という信条があるからだろう。素浄瑠璃の伝統を残すためにはビジュアルが不可欠だとオリジナルの人形による人形浄瑠璃をつくり、能勢を題材にした新作にも力を入れ、人形遣いや囃子を育てて劇団化し、美少女キャラクターの人形もつくった。「みんながワクワクすることを提供したい。今できることをしているだけ」と松田さんは笑うが、200年後にはこれが古典になっているかもしれない。

一方で、鹿角座は25周年の節目として、能勢の素浄瑠璃の人気演目である『新口村』の初上演に挑戦した。これまで太夫と三味線でつくる能勢町郷土芸能保存会がこの演目を人形と上演する時には、徳島県から勝浦座を招いていたのだが、鹿角座のレパートリーになれば保存会に協力できるようになるかもしれない。

当初は素浄瑠璃こそ能勢の伝統と信じる太夫の中には鹿角座に反対する人もいるなど、能勢人形浄瑠璃の誕生には逆風もあった。しかし、世代交代もあり、「5、6年前から見ると、保存会と鹿角座が近くなって来たと感じる」と岡本座長。今回の『新口村』の上演でもっと交流が進めばと期待する。

能勢町の人口は2023年5月1日現在9,185人。人形浄瑠璃がデビューした年から6,000人近く減少した。少子高齢化と都市への人口流出に直面し、伝来の文化をいかに継承するか。全国の自治体や保存団体が抱える共通の課題だ。独自の素浄瑠璃文化を、時代に合わせて変化・発展させてきた浄るりシアターの果敢な挑戦がヒントになるかもしれない。

(ジャーナリスト・奈良部和美)